

1. 地域との意見交換の状況

- ・立地適正化計画の周知等 : 20校区の自治協
 - ・地域課題のヒアリング : 80団体以上
 - ・担い手育成(小・中学校) : 13校
 - 〃 (高校) : 3校
 - 〃 (大学) : 3校
- ※ R5. 7末時点

2. 地域拠点の主な動き

子飼地区

- ・令和4年度は地域主体で10回の子飼地区会議を開催
- ・参加者は自治会、商店街、学校(小、中、高、大)、市など
- ・子飼商店街が目指す**将来ビジョン**などを検討

将来ビジョン

『様々な人たちが行き交う交流の場所として、
非日常のような日常のある商店街』

今年度は・・・

- ・子飼地区会議の継続
- ・ビジョン等の**地域への周知**
- ・**実行プランの作成**



▲子飼地区会議

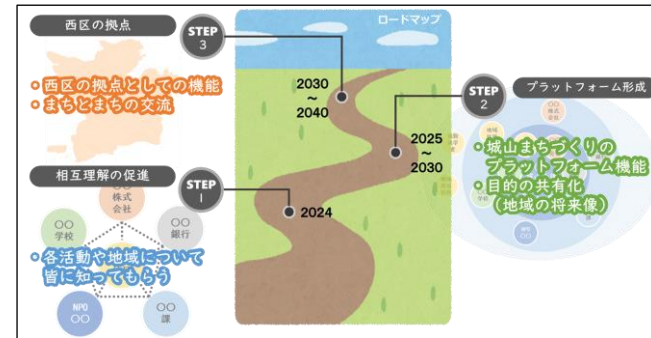
3. 今後の方針(案)

城山地区

- ・まちづくりのキーパーソンを集めた『(仮)城山会議』を発足

今年度は・・・

- ・(仮)城山会議や地域住民を対象としたWSを開催
(地域の将来像のイメージを検討)



▲城山地区 ロードマップイメージ

水前寺・九品寺地区

- ・地域の企業が地域住民を集めたWSを開催

今年度は・・・

- ・地域のまちづくり団体や企業、
地域住民を対象としたWSを開催
(地域の将来像のイメージを検討)



水前寺・九品寺地区 企業主催のWS ▶

地域拠点における
まちづくり

短期(3~5年)

①機運醸成(植木、北部、楠・武蔵ヶ丘、八景水谷・清水亀井、長嶺、平成・南熊本、刈草、城南、川尻、上熊本)
○立地適正化の周知 ○地域課題の聞き取り ○地域活動の支援 ○地域内の課題共有 ○次世代の担い手の育成

②構想(子飼、水前寺・九品寺、健軍、城山、富合)
○地域の将来像の検討 ○新規支援制度の構築

各地域拠点においてまちづくりの進捗に濃淡があることから
機運醸成等は短期的な枠を超えて、取組を継続していく。

中期(20年)

継続

継続

③事業化

○事業着手(熊本市、民間) ○事業への補助(熊本市)

④維持

○事業の運営、管理 ○活動費の支援

長期

多核連携都市の実現